

学校部活動と連携しているクラブ

専門性の高い指導で競技をより楽しく学ぶ ～ NPO法人宮城スポーツクラブ(群馬県前橋市)～

クラブと学校部活動が連携する利点のひとつには、専門知識のある指導者から質の高い指導を受けられることがあげられます。群馬県の「宮城スポーツクラブ」では、子どもたちがスポーツとして、そして、競技としても部活動を楽しめるよう、外部指導者によるサポートを取り入れています。

♂ キーポイント

- ★ 学校側から外部指導者としての依頼を受け連携がスタート

1 クラブ概要

クラブが位置する群馬県前橋市では、充実したスポーツ施設がありながらも、地域住民の多くがその施設を一度も利用していないという実情を抱えていました。そのため、総合型クラブを設立することで、今までスポーツに親しむことの少なかった人たちが、気軽にスポーツを楽しめる機会を作り、健康増進と世代を超えた交流の場を形成したいと考えたのです。

まず始めに、宮城体育協会関係者など、クラブ設立の趣旨に賛同された人たちを中心に設立準備委員と運営委員を組織し、その後「宮城スポーツクラブ」が誕生しました。

老若男女を問わず、いつでも、だれでも、いつまでも、数多くのスポーツに親しむことができる環境を整え、スポーツ振興と地域社会における健康で明るく豊かな生活の実現に貢献することをクラブ理念に活動しています。

現在、クラブでは運営委員がそれぞれに得意な種目の教室を担当することで、卓球、柔道、インディアカ、ウォーキング、少年サッカー、パドルテニス、ソフトバレー、スポーツチャンバラなどの教室を開催。そのほか、前橋観光コンベンション協会との共催イベントであるウォーキング交流会なども運営しています。

2 連携により専門性の高い指導が実現

昨今の学校部活動においては、児童数の減少による部員不足や、それに伴った部活動種目の減少、指導者不足など、さまざまな問題を抱えています。また、教員が経験したことがない競技に関して専門的な知識や技術指導をするのは困難であり、大変な負担になってしまうことも問題のひとつです。

当クラブが活動している前橋市宮城地区も例外ではありませんでした。クラブでは設立当初より小学生以上を対象にした卓球教室を開催しています。活動場所として、夜間に開放される中学校の体育館を使用していたことから、中学生も大会が間近になるとクラブ会員と一緒に練習をしていましたが、正式に連携するまでには至りませんでした。

しかし、小学生の頃から卓球教室に通っていたクラブの卓球指導者のお子さんが、中学生になり卓球部に入学したことが、クラブと学校部活動の関係が変化するきっかけとなりました。

お子さんが入学し中学校卓球部の試合を多く見るようになったクラブの指導者が、「こうしたら試合に勝てるのではないか」、「このような練習をしたらもっと上手くなれるのではないか」と考えるようになったのです。同時に、試合運びなどに影響のある精神面の指導の重要性も感じていました。

その後、中学校側から外部指導者として指導の依頼を正式に引き受け、連携がスタートしました。そのため、大会の現場でアドバイスすることも可能になり、入賞する生徒が増えるなど、徐々に結果にも現れてきています。

実際に外部指導者として学校部活動に関わる進藤裕昭さんは「ほかにも仕事を抱えているため、仕事が休みの

日や大会開催期間のみなど短時間の指導しかできないことが一番の悩みです。しかし、子どもたちが上達していく姿を見るのが一番の楽しみです」と話します。クラブでは、これからも学校との連携により子どもたちへのサポートが充実することで、子どもたちが卓球の楽しさを知り生涯スポーツとして卓球を続けてくれることを願っています。



クラブでの卓球教室の様子(左)。大会では、外部指導者もコートサイドに立ち直接指導している(中央、右)

3 今後の展望

クラブは、平成26年9月に群馬県知事より「群馬県生涯スポーツ功労団体」として表彰を受けました。行政から施設の有効な利用方法についても相談されるようになってきたことは、協力や連携が取れつつある証拠だと考えています。これからも、地域住民のみなさまの期待に添えるようなクラブであり続けられるよう、日々努力をしています。

(群馬県クラブアドバイザー 梅澤 光枝)

クラブプロフィール

設 立：平成19年2月25日
住 所：群馬県前橋市大前田町1551-13
運 営：会員212名(平成26年10月時点)
予算規模：165万円(平成26年度予算)
TEL/FAX：027-283-0784
E-mail：miyagi_sports_club@mbp.nihty.com